

おひさま通信

仲間と家族のつながり
から見たこと

* 大地 *

美弥さんの第一印象

私が入職してからずっと担当している美弥さん。美弥さんは失語状態のため、文字盤や指で文字を書いてコミュニケーションを取っています。はじめは美弥さんの書く文字をうまく読み取れず何度も聞き返してしまいましたが、それでも美弥さんは何度も自分の話したいことを私に伝えてくれました。この経験から美弥さんは自分の気持ちを相手にきちんと言葉で伝えていきたいのだと感じました。



を測るのではなく、相手を理解し許せること、または相手の違う意見を受け止めることが、毎日の暮らしの経験の中でできているようにも感じ

帰省のこと・お父さんの容態の変化に葛藤する

そんな中、毎週土日に帰省していた美弥さんですが、お父さんが入院することになり毎週の帰省が困難になってしまいました。いつも帰省していたのが帰省できなくなる、お父さんの心配など不安も重なり、職員や物に当たってしまったり、食欲が落ちてしまいました。初めて見る美弥さんの感情の変化に戸惑いを隠せませんでした。どうやって美弥さんと関わればいいのか悩む日々でした。

ある日、お父さんが無事に退院することができ、年末に帰ることができると美弥さんから連絡がありました。しかし、美弥さんは「帰省できる日が短い」と言っていて納得できません。久しぶりで帰省できると、まずは「一週間でも帰れることをうれしく思っでほしい」と、「お父さんが退院できてよかった」と思っていました。「お父さんの体調のこと、妹さんの仕事の都合も考えて、周りを無理させて長く帰るよりも、決まった日にちで楽しく帰れるほうがいいのでは？」と美弥さんとぶつかりました。「美弥さんも楽しく帰りたいし、皆のこと大事なんだからね」とは領きますが、決まった日にちで帰ることには反対します。美弥さんに家族のことを大

年末の過ごし方の選択

翌年の年末にも妹さんより帰省はどうかと連絡がありました。美弥さんに「年末の帰省はどうする？」と聞いたところ、「家だと狭くて動き



年末の過ごし方の選択

事によってほほしいという気持ちから、葛藤しましたが納得できず、そのまま帰省し家族で相談してもらったことになりました。お互いモヤモヤが残りながら美弥さんが帰省する中、「お父さんのことが心配だから、決められた日にちまでにして」とFAXをくれました。大地へ帰寮したときも、年末の帰省前のことについて「あときごめん」と自分から謝ってきました。時間はかかってしまいましたが、家族や職員の思いを受け止めてくれて、美弥さん自身で気持ちに整理をつけ、自分で折り合いをつけることができました。私と美弥さんが初めて美弥さんの話を聞きながら一つひとつ整理し、解決することができた瞬間だったと思います。

ています。特別な取り組みではなく、日々の暮らしの中で、相手を理解し、自分と相手の違いを知り、相手のことを素敵だと思えること、「そう思える私も素敵だ」と思えることにつながればと感じています。

コロナ禍での晩酌の工夫

外出がとでも好きな美弥さんですが、コロナ禍で外出することが難しくなっていました。制限がある中大地で過ごすには行けないことになりました。大地の中でも少しでも楽しみを持ってもらいたいというので、今まで毎週金曜日に晩酌の日(好きな飲み物や食べ物を各自用意して、夕食の時間に楽しむ時間)になっていましたが、毎週水曜日と金曜日が晩酌の日になりました。以前から晩酌の日を楽しみたいと思っていた美弥さんですが、夕食でおなか一杯になってしまえば晩酌までたどり着けないことや、晩酌が水分やゼリーだとトイレが近くなってしまうことが心配であることから、晩酌の飲み物や食べ物を用意することができていると、その中で私だけでなく、他の職員とも色々と話し合った結果、水分が少なそうなプリンなら食べられそうだとすることがわかりました。プリンを用意することになった

美弥さんにとって大切な存在

てからは、食後のトイレの時や就床前に「晩酌のプリンが美味しかった」と嬉しそうに伝えてくれたり、他の仲間と晩酌の食べ物を見せ合ったりしている様子も見られ、晩酌の日を楽しんでいるように思います。コロナ禍で自由に外に出かけられず大地での生活が中心となりましたが、美弥さんの嬉しそうな笑顔を見ることで良かつたと思えます。



11月にはコロナも少し落ち着き、大地でも人があまり集まらない時間であれば買い物に出かけるようになりました。美弥さんともう一人の仲間と外出できる機会があり、近くのショッピングセンターまでお出かけしました。美弥さんも外出できることをとても楽しみにしていてウキウキしていたのですが、一緒に行く仲間

にくいので大地で過ごしたい。家族が会いに来て外出できたらしいな」と答えました。「本当に帰省しなくていいの？」と聞きますが、答えは変わらず「大地で過ごしたい。そして、家族が会いに来てくれたら良い」でした。今までは帰省を楽しみにしていた美弥さんでしたので、この答えには驚きました。美弥さんは日々の生活の中でいろいろ悩むことがありましたが、それぞれ自分で相談できる相手を探し、その都度話しをしてきています。日々の生活で職員や仲間との関係を大切にすることで、相談できる相手をきちんと探して色々な意見が聞かれます。そういった小さな選択をするという経験を積み重ねてきた結果が、「年末の帰省はなしにして家族と外出したい」という大きな選択をすることができたのではないかと思います。

仲間のことを受け止める

仲間とのやり取りの中でも変化がありました。美弥さんは仲間のこと大好きで、食事の時間には一緒にテーブルで食事をして仲間の代弁をしてくれたり、ショートステイの仲間のことを気にかけてくれたり、入院を選んでくれたり、相手の立場に立つ

間に「マスクをしてあげてね」と職員に伝えてくれ、一緒に行く仲間のことにも気にかけてくれました。ショッピングセンターに着くと自分のプレゼントを選ぶのかと思いきや、「入院している仲間の〇〇さんにプレゼントを選びたい」と伝えてくれました。土産を「買いたい」と伝えてくれました。仲間のプレゼントを選んでから、自分の買いたい物を選んでみました。美弥さんも買いたい物を楽しみにしていましたが、それ以上に仲間や家族のことが大切な存在で、喜ばせてあげたいという気持ちが伝わり、美弥さんの優しい人柄が改めて伝わってくる時間でした。

人との関りが大好きで、たくさん思いやりを見せてくれる美弥さん。毎日の暮らしの経験の中で、着実に自分の力にしているのを感じています。誰かのことを思いながらも自分の気持ちもしっかりと伝えられる美弥さんです。大地の集団の中の自分らしい生活を確立してきているのではないかと思います。

大地職員 山本 紗良

